

市長記者会見記録

日時：2015年9月1日（火）午後2時～午後2時12分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：市政一般

<内容>

（平成28年度予算について）

司会： ただいまより定例の市長記者会見を始めさせていただきます。本日は、市政一般となっております。

それでは、市長、よろしく申し上げます。進行は幹事社さん、よろしく願いいたします。

市長： よろしく申し上げます。

特に、こちらからはございません。

幹事社： 今日から9月議会が始まって、市長、冒頭の挨拶でおっしゃったように、決算議会ということで、昨年度の状況を踏まえて今後の予算編成ということで、今日予算編成方針も示されましたが、そこに書いてあることが全てだと思うんですけども、改めて市長から、28年度予算に向けてどういう方向で臨んでいきたいかということをお聞かせください。

市長： 28年度は新たな総合計画が始まる年でもありますので、総合計画に盛り込んだものを着実に推進させるというための適切な予算配分というものをやっていきたいなというふうに思っています。それを実現させるためには、より効率的かつ効果的な手法というものを考えていかなくちゃいけないというふうに思っていますので、そのところをバランスよくやっていきたいと思っています。

幹事社： あの中にも言及されておりますけれども、引き続き財源不足が深刻な状況であるという具合にあって、減債基金の適切な活用というような趣旨のことが書いてあったと思うんですけども、一方で、議会などから、減債基金を使うのはどうなのかという声もありますが、財源対策ということについて、今後、市長が公約されている小児医療費の無料化の拡大であるだとか、あるいは新庁舎、それから羽田連絡道、こういった大型のソフト、ハード両面の事業が今後予想されますけども、どういう具合に財源を活用して、ひねり出していかれるのか、財源の見通しということも含めて、来年度予算編成について、もう1回聞かせてください。

市長： 単年度のというのは、単年度ごとにしっかり見ていかなくちやいけませんけども、今おっしゃったような大型というものは長期のスパンの中で見ていかなければなりませんので、それは長期の中での財政フレームの中でしっかり考えていくということだと思います。30年度までは、残念ながら減債基金からの借り入れというものをやっていかなくちやいけないという状況にありますけども、31年度からはしっかりと収支均衡、さらに返済へとつなげていくということでもありますので、そういった大きな事業を盛り込んだ中の話でありますから、個別の財源対策というよりも大きなフレームの中でしっかりと考えなくちやいけないというふうに思っています。

一方で、31年度から返済とか言っていますけども、それまでの期間も、なるべく借り入れは少ないほうがいいに決まっていますから、少なくして、返済はなるべく早く始められるように今後も努力をしていきたいというふうに思っています。

幹事社： 各社さん、どうぞ。

(川崎駅東口駅前地区地区計画素案について)

記者： すいません。駅の東口の再開発、都市計画に絡んで、飲食店とかパチンコ店とか遊戯施設についてはつくれないような形の都市計画の策定を市のほうで考えていらっしゃるということですが、市長は、この件に関してはどのようなお考えをお持ちでしょうか。

市長： これは川崎区とか幸区の、この近隣の人たちだけでなく、川崎市のまさに玄関口、顔となるところでありますから、非常に市民の関心のすごく高いところだというふうに認識しています。その中で、商工会議所をはじめとして、各種団体の方からも、さいか屋の跡地周辺のことについては、玄関口にふさわしいまちづくりをということで様々要望を受けておりますので、そのことに川崎市としてもしっかりと、ふさわしいにぎわいづくりだとか、まちづくりというものをやっていかなくちやいけませんので、そういった意味でのある種の規制というものが必要であるというふうに認識しておりますので、そういった意味での地区計画であります。

記者： パチンコ店はふさわしくないと。

市長： いわゆるパチンコ店というよりも、いろんな業種、列挙させていただいておりますけども、それにふさわしいものを誘導していきたいなというふうに思っています。

(2020東京オリンピック・パラリンピックについて)

記者： よろしいですか。東京五輪・パラリンピック関連の質問なのですが、明日、神奈川県が東アフリカのエリトリアと事前キャンプの協定で締結式をするんですが、エリトリアが事前キャンプを箱根で行うということが決まりまして、今の川崎市のスタンスをもう一度確認したいんですが、誘致はしていきたいというスタンスは変わらずでよろしいのでしょうか。

市長： そうですね。誘致というか、事前キャンプだけに集中してという考え方は持っておりませんが、ある意味、事前キャンプ誘致を含めた盛り上げ方をトータルで考えていきたいというふうには思っています。

記者： トータルというのは、以前からお話、例えばバリアフリーを完成させた上での、競技以外のイベントとか、そういうイメージでしょうか。

市長： あくまでも例えばの話でありますけども、「かわさきパラムーブメント」というふうな動きでは、パラリンピックをなるべく支援していくという意味では、支援していく中でまちのつくり方、ハードな面でも整備していかなくちゃいけないというのは今後増えてくるというふうに思いますので、そういう中で、事前キャンプの誘致も当然連動してくる話だというふうに思っていますので。

記者： その事前キャンプの誘致の点では、等々力の陸上競技場というのは最大限にアピールをしていく……。

市長： はい、そうですね。これだけ東京に近くて、あれだけ集客できる施設というのもあまりないというふうに思っていますので、そういった意味では、非常に魅力的なところではないかなと、そこをしっかりと整備していきたいなというふうに思っています。

記者： ありがとうございます。

(国政の動向について)

記者： 国政のほうで、民主党と維新の合流構想が急にというか、大分活発化しているんですが、その辺、国政の野党のあり方というか、今、一強他弱と言われて大分久しいんですが、どのように感じていらっしゃいますか。

市長： 一強他弱の状態というのは、僕はよろしくないというふうに思っていますけども、もう全然わからないですね、正直。維新の党も分裂したと思ったらまた民主党とくっつくとか、全く理解ができない。国民の皆さんはどう思っているんですかね。僕には理解できないですね、もう。ただ、一強他弱な状態というのは、よくないとは思いますが。

記者： 今回のそういう話というのは、今、理解できないということですけど、野合と取られかねないという認識ですか。

市長： というか、とりあえずくつつこうという話ですよ、今の。だから、僕も今言っていることは若干矛盾しているのかもしれませんが、一強他弱の状態を脱するには大きくまとまらなくちゃいけないんでしょうけども、あくまでも何でもってまとまるのかというふうな話が出ないと、要するに自民党と対抗するだけとかいうのであれば、集まっても何の魅力もない政党になっちゃうんじゃないですかね。

記者： そういった中で、ちょっと前に、元仕えていた松沢参議院議員が次世代の党を離党されたんですが、党首になるのではないかなというふうに思っていたんですが、路線対立ということで離党されましたが、そのことについて何かご所見ございますか。

市長： 特にはございませんけど、本当に特にございません。

記者： 松沢さん自身は、これまで政党を大分変更しているというか、離党されたり、10個以上、政党を渡り歩いているんですけども、そういった政党を渡り歩くということに関しては、市長はどのように感じていらっしゃるでしょうか。

市長： それは、政治家がどの党に所属されというふうなのは、全くもって、それぞれの考え方と信念に基づいての行動でありましょうから、他の政治家がとやかく言うべきことではないというふうに思います。常に有権者に対する、どう移るのかというのは、それぞれの政治家がそれぞれ判断されるということだと思いますので。

記者： 特に離党してご連絡があったりとか、何か話したことはございますか。

市長： 特にはしません。

幹事社： ほかにありますか。

記者： エンブレム問題はどうか。今日、結局、使用中止ということになって、結構、紆余曲折あって、国民も含めて注目を浴びているんですが、何か感じられていらっしゃることはありますか。

市長： これは、僕、予測していましたね、こうなると。絶対こうなっちゃうなと思っていましたけど、やっぱりそうなっちゃいましたね。

記者： 似ている、似てないとか、盗用したか、盗用してないかというのはわかりませんが、問題が発足した時点で、こういう結末になるんじゃないかなという。

市長： 何かそんな感じ、しましたよね。取りざたされていって、どんどん深みにはまっていく感じがしたので、これはなるべく早く事を決断したほうがいいんじゃないかと思っていましたけど。

記者： こういう問題で、市長として、自分の市政運営で参考になることは。深みに

はまらないようにするとか。

市長： 本当に、いろんな場面を見て勉強させていただきたいと思っております。

幹事社： ほかにございませんか。

司会： 質疑はよろしいですか。

それでは、以上をもちまして市長会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355